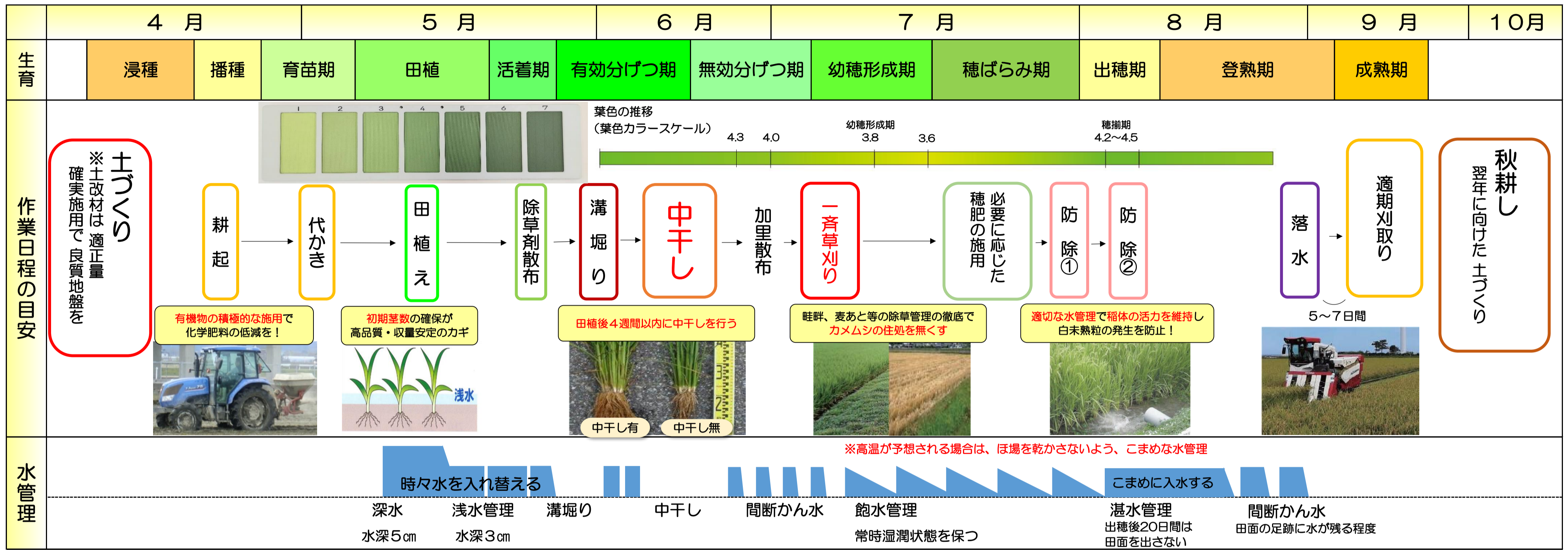


令和6年度 コシヒカリ栽培こよみ

みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

重点対策

- ① 土壤改良資材の継続的な施用 ② 初期茎数の確保 ③ 生育に合わせた水管理 ④ 適期防除 ⑤ 適期刈取り



土づくり資材の施用基準

土壤改良資材	珪酸石灰	160kg
	苦土重焼燐	20kg
	シリカパンチF	120kg
	アサビニューテツ	160kg
有機質資材	グリーンウェイブ2	60kg
	発酵ケイフン	75kg (春施用基準量)

(10aあたり)

適正な基肥量の施用

一発肥料(側条施用)の場合
Jコートコシヒカリ1号または2号
38kg/10a

苗箱施薬(使用量:50g/箱)
※密苗の場合の使用量:1kg/10a

田植前3日~当日に苗箱施用
(播種同時処理も可能)

ヨーバルプライムEV箱粒剤
いもち病、紋枯病、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ
除草剤との間違いに注意!

除草剤の体系

● 散布後5日間は湛水状態を保ち7日間は落水しない!
※ 散布前に軽い田干しを行うと、薬剤の拡散に効果的

一発処理: プライオリティ 1キロ粒剤 (田植後5日~10日)

体系処理: かねつぐ 1キロ粒剤 (田植当日~4日) または プライオリティ 1キロ粒剤 (田植後11日~20日)

● 上記の除草体系でも残草がある場合
ノビエ・広葉雑草 両方に効果が高い!

サンパンチ 1キロ粒剤、レプラス ジャンボ、トドメバス MF液剤、ロイヤント 乳剤、トドメMF 1キロ粒剤

病虫害防除

2回防除で病虫害シャットアウト!
基本防除
ドローン・乗用管理機等

1回目 走り穂 7月下旬
スタークル液剤10 + モンカットフロアブル (ウンカ類、紋枯病、カメムシ類)

2回目 穂揃期 8月上旬
ラブサイドK2フロアブル (いもち病、カメムシ類)

秋耕と春耕の2回掛け

秋耕のメリット

- ① 稲ワラの腐熟促進
→ワラ・ヒコバエを腐植へ
→春先のワキの防止
- ② 春耕の効率化
→作土深の確保

土づくりも積極的に!

牛ふん堆肥 1~2t
発酵ケイフン 150kg (秋施用)
75kg (春施用)
(10a 当たり)